

## 第12回

創立米沢図書館碑  
(西大通一丁目)

石碑の大きさは、高さ 248 cm、幅 116 cm。碑文は伊佐早謙の撰で、書家の土肥博の書になります。

今回は法泉寺境内の文殊堂西側に建つ「創立米沢図書館碑」を紹介します。明治42年10月に開館した米沢図書館を記念して建てられた石碑です。

藩校興譲館の蔵書を  
引き継ぎ開館

米沢図書館が最初に建てられた場所は、文殊堂の西側でした。興譲館財団より蔵書・土蔵と資金三千円が寄贈され、上杉伯爵家や市民有志からの募金で建設・整備、財団法人米沢図書館（木造2階建）として開館しました。

当時は男女別の利用で、女性専用は有料で1枚1銭、7枚綴で5銭の閲覧券がありました。公共図書館が無料になるのは戦後のことです。興譲館から引き継いだ古典籍を基本蔵書とし、新たに一般書を充実させていきました。

## 明治44年に記念碑を建立

開館2年目を迎え、その意義を後世に伝えるため創立記念碑が建立されました。上部の篆刻は上杉茂憲の筆で「智府」と刻まれています。また本文には図書館設立までの経緯が記され、目的を「夙夜研究研徳して智を磨き、以て国運の発展に資す」と高らかに謳っています。図書館は智を磨き国に役立つ人材を育てる場所と期待されていましたが、その後図書館は移転しましたが、石碑は図書館が最初に建った場所と、その意義を静かに示しています。

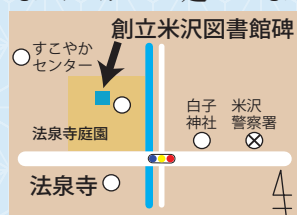
その後の  
米沢図書館の変遷

昭和13年に財団から米沢市に移管、名称を「市立米沢図書館」と改称しました。そして昭和29年には松が岬公園

南側に新築移転しました。

正面はギリシャ建築風の石柱が並び、その上に桜井祐一が制作した女神像のレリーフが組み込まれ、市民を見守っていました（現在、レリーフは第一中学校校舎に利用されています）。そのモダンな外観とは裏腹に、古材等を利用した建物は傷みが激しくなり、昭和50年に置賜総合文化センターに統合移転しました。現在、移転から40年を経て、閲覧室や駐車場の手狭さが課題となっています。

来年7月、新図書館（新文化複合施設）が市中央部に開館する予定です。開架数15万冊の本に囲まれた図書館に生まれ変わります。伝統を受け継ぎ、市民のために役立つ新図書館となることが期待されています。



平成28年7月、開館予定の新図書館新文化複合施設



昭和50年、置賜総合文化センターに統合した現在の図書館



昭和29年、松が岬公園の南側に移転した市立米沢図書館



明治42年10月に開館した創米沢図書館

## もっと輝く！「農」の未来

和牛の繁殖農家の渡部英里子さん。この日は、台風が去った青空の下、牛舎脇のパドックで撮影にご協力いただきました。「雨続きだったので、今は牧草集めで大忙しです」と渡部さん。これからも元気に農業に取り組んでいってくださいね。（9月15日撮影）

